

平成 22 年 8 月 11 日発行
第 153 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel : (0548)32-0701 緊急用 : 090-1758-1712 Fax : (0548)32-1280

「サッカーW杯 南アフリカ大会を堪能して その - 世界編 - 」 加藤寿夫

（第一に）ドイツ西部 オバー・ライン水族館の夕の「パウル君」、ドイツの負け試合、3位決定戦を含む7試合と、スペイン対オランダの決勝、全8試合を驚異的にすべてを的中。

（第二に）スペインは、オランダ人ヨハン・クライフの“トータルフットボール”全員攻撃・全員守備の哲学、磨き抜かれた個人技に華麗なパスワークが融合し組織の力、綺麗なサッカーで優勝。予選リーグ初戦スイスに敗れ、決勝リーグは全て10での勝利。“欧州国家”を結束させた“無敵艦隊”は、決勝オランダ戦、ファン・デル・シャープの狡猾デヨングのラフプレーにも屈せず、信念を曲げず自分達のスタイルを貫き、延長116分味方壁に当たってゴールラインを割ったのにゴールキックとの判定ここからつないで最後はニエスタが右足で豪快に蹴り込んだ。ロッシとの2度の一対一の場면을ブロック、全7試合を2失点でしのいだGKケル・カシヤスの好セーブも光った。

（第三に）強豪国、フランス・イタリアは、内紛が勃発し、一勝も出来ず一次リーグで敗退。

（第四に）優勝候補筆頭のブラジルは、ドゥンガ監督の基 個人技の上にチームの和、ドゥンガがガジビロ磐田時代に学んだ日本人魂をブラジルの高いレベルの中に持ち込もうとしたのであろうが、スペインとは熟成度が違った。オランダ戦 劣勢になった時、敵の挑発に乗せられたにせよ、フェリペ・メロがロッシを踏み付けての退場、ここから取り直す事は出来なかった。西村雄一主審の毅然としたレッドカードの提示は記憶に残る。8年後にならうか、ドゥンガの基 魂を埋め込んだ“和”を完熟させたブラジルサッカーが見たい。「サッカーに対しては純な男」と自らを語る 本年50歳を迎えるマツ・ナ監督が指揮する アルゼンチン、シュート30本でノゴール・メッシを中心においたチーム作り、メッシはゲームメーカーには成りきれずに敗退した感が残る。しかし、3人以上が徹底マークする状況、これを打破するのがメッシだからこそ課せられた超えられなかった壁であった。

（第五に）決勝トーナメント一回戦(6/27)ドイツ対イングランド・クロスバーの下をたいて明らかにラインを超えた位置に落ちながら見落とされたランパードの「幻のゴール」イングランド主将 ジェラード が敗退の決まった試合後 主審と握手する姿は紳士的であった。アルゼンチン対メキシコ戦「明らかなオサイト」にもかかわらずペレスの得点、大きな誤審2つは同日に起こった。また、ウルグアイ対ガーナ(7/3)明らかな得点を故意のハンドで阻止した、FWスアレスの一発レッド、PKが決まらず試合がひっくり返りウルグアイが勝利。彼は「FWだから得点を話題にしてくれ」のコメント、未だに「認定ゴール」の導入を巡り物議を醸している。

（最後に）決勝に先だて行われた閉会式では、南アフリカ初の黒人大統領 ノーベル平和賞受賞 ネルソン・マンデラ氏(7/18で92歳 1918[大正7]年生)が 元気な姿を見せた。映画「インビクタス(負けざる者たち)」では、将来を見据え先頭に立ち、時には周囲に犠牲を強い 時に鼓舞する姿、リーダーとは何かを訴えている気がした。何時の何処の世界でも、主権者としての責任と自覚が大切であると痛感した。 2010.7.19.

P1は榛原医師会報「心のひろば382号(2010.8.)」に投稿した文面を掲載しました。

下記は先月 6 月 24 日、榊原医師会広報“心のひろば”に投稿した原稿です、7 月 28 日開催の指定管理者沖繩徳州会榊原病院症例検討会で提示させていただく心積もりでしたが、“場”を考慮した上で、“任を終えて”と題し改稿した上で再投稿しました。

「榊原医師会理事の“任を終えて” - その - 」

下記は本年 3 月、心のひろばに投稿した内容です。編集委員会の方から掲載の可否については、なかなか返事をもらえない状況が継続しておりますが、ここで最近の状況を含め、先月投稿の内容その から、更に と改稿して、改めて投稿させていただきます。

2010.3.1. 「榊原医師会理事として最後の仕事 - その - 」

榊原医師会理事 吉田町の担当者として、「榊原病院再スタート説明会(2010.3.2. 吉田町学習ホール)」にて、下記の内容発言を読み上げていただくように、榊原病院さんをお願いしました。

「榊原病院再スタート説明会」企画担当者御中

榊原医師会 理事 加藤寿夫と申します。私、医師会の理事として吉田町を担当しております。

今回「24 時間救急の受け入れ」を、前面に出されて、徳州会さんに 榊南地域の医療の本管に関わる部分を担っていただけるというお話。私自身、大変有難く、受け止めております。

特に、内科から始めまして 外科までの 循環器科の拡充から手を付けられ、始められるという内容、是非 お願いしたいと考えます。

そして、更に次には、矢張り、本筋の救急の本管、脳外科・小児科ではないかと 当然の如く お願いしたい思いが募っております。強請り過ぎでしょうか？

折角、茂庭将彦院長のみえます産婦人科が現時点での、これが中核の病院となっておりますので、是非 小児科の充実をお願いしたいと考えます。

更に、我々 榊原医師会医師団、私が 49 歳で 吉田町では 1,2 番目の若手になってしまう状況、高齢化している開業医の地域の実状は否めません。そんな状況で御座いますが、徳州会さんとの、予防を含めた医療業務の“仕分け”、一般の予防接種・健診等との“割り振り”については、行政との話し合い、交渉の上で、地域住民の利益を第一に優先に、ここには十分な配慮をしていただく事で、宜しくお願いしたいと考えます。

繰り返しになりますが、まずは、榊南地区の 地域住民の願い、我々医師会 医師団の願いと致しましては、矢張り、当たり前命を救える患者さんに対する救急医療の拡充。榊原医師会の理事の私の立場からは、先ず此処を担って頂きたいと、重ね重ね お願い申し上げます。

以下略

以上につき報告 致します。

平成 22 年 3 月 1 日 加藤寿夫

【詳細は 康寿診報 第 148 号平成 22 年 3 月発行参照】

先月(6/11)、榊原総合病院 心臓血管内科 センター長 末吉敦先生が、心臓カテーテル検査等の緊急の合間を縫って 榊南地区の開業医のところを個別に訪問しているという事で、当院へも 総務課増田芳昭係長と共に挨拶に見えて下さいました。

私はこの榊原郡吉田町に帰り 父康二と共に歩む 開業医の道を決めた後、1996 年 10 月から 1997 年 3 月までの半年間、埼玉県狭山市の石心会狭山病院で糖尿病の教育入院の立ち上げの為に勤務した事があり「民間病院の運営面を含めての厳しさ」は肌で感じる経験をしました。そしてその目線、私から見た現在の榊原病院への思いや 最近の榊南地区の状況・在るべき姿勢などを、石心会狭山病院の元事務方トップと何度も語り合っております。

今回、末吉先生とは、その狭山病院元事務方トップが語った内容も含め、上記“囲み文”のお願いをはじめとして「循環器科の充実 これと同等それ以上に、我々医師団 地域の住民の求めるものは、上記の内容である事」「我々医師会員との、CT・MRI・骨量測定等の検査料金の料率の問題」「年間 15 億円に 320 列の CT の導入まで、ここまで 地方自治体(牧之原市・吉田町)が徳州会に対してお願いする姿勢」「静岡市静岡医師会の安部川東側徳州会静岡病院周辺で開業する先生方の、徳州会静岡病院の先生方が医師会に属していない状況 この互いの言い分などを含めた、生の声」「徳州会静岡病院に関わった看護師の話」「PET 等の検査の便宜の為に運行する育友会の無料バスの運営」など、多少言いにくい事もあったのですが、包み隠す事なく全てをオープンに私から話した上で、末吉

先生と腹を割って語り合う事が出来ました。

中でも印象的だったのは「基本的には患者さんの為に、昼夜無く必要な医療を提供する」「金儲けをしると言われた事は無い」「医師会の先生と中々うまくいかないのは、何かしらの誤解が生じているからだろうか？」などという事でした。

私が産業医をしている栗田工業での出来事ですが、突然、心室細動による心停止で倒れた方がおりました。この方は、その後すみやかに同企業内で保健師により A E D を受けて蘇生され、救急隊により搬送され 榛原病院で急性心筋梗塞の適切な治療を受ける事が出来て、無事生還されました。これは「同企業内で一昨年(2008 年 2 月)になり A E D を設置した事」「4 月から榛原総合病院で心臓血管内科が急性期医療を再開された事」この二つの“事”が重なった事によると思われる。この二つのうち一つでも欠けていれば、この方の命を救うことは出来なかったでしょう。これは、今後の榛原地区の医療を鑑みる上で、まさに特筆すべき“事”であると思います。

指定管理者である特定医療法人沖縄徳州会の医師をはじめとする現場のスタッフの思いは「この榛南地区に根差した医療を提供する事」であり、この思いは、我々医師会員と何らの隔たりもないのです。そして、その思いと、地域医療の実際の備えがあってはじめて、栗田工業の件のように「必要とされる地域医療」がやがて実を結んでいくのだろう、と実感しました。

開業医や総合病院がこの榛南地区で安定した医療を実現させていく為にも、皆で「この榛南地区に根差した医療を提供する」という思いを末長く持ち続けていく為にも、医療の在り方について、今後より多くの話し合いの場が必要となる事と考えます。

以前 2010.3.15. 榛原医師会「開館 40 周年記念誌」に下記の内容を投稿しました。何故か掲載を許されなかったのですが...

『「地域住民の本物の自立と“健全な健康”』を第一義に - その 2 - 』

2009.9.30.投稿の文面 略

上記の原稿を投稿してから、5ヶ月余り“榛原病院問題”大きく“事”が動きました。行政と医療法人「徳州会」の交渉、行政の下した最終結末、その結果。以下の“時”一刻 刻んできた、今だ進行中の記事。

2009.12.5. 静岡新聞 P30「町にとって病院は 2 次救急のとりで。...」, 2010.1.5. 静岡新聞 P26「民営化『3 月目指す』徳州会幹部が意向『時間と勝負』準備急ぐ」、2010.1.28. 静岡新聞 P25「榛原総合病院民営化後『自治体負担 年 15 億円試算』」「24 時間救急断らず」、2010.2.24. 静岡新聞 P31「来月から正式民営化 徳州会の定款変更完了」、2010.2.25. 中日新聞 P17「榛原病院『再生手術』民営化機に態勢改善」、2010.2.26. 静岡新聞 P31「榛原総合病院再建へ『意思疎通図り医療守れ』」

牧之原市長 西原茂樹氏と 吉田町長 田村典彦氏、一市一町、「榛原病院閉鎖」という事態の回避の為、2 人の“長”の大きな覚悟の上の決断、これ以上の先送りは許されない“苦肉の策”であったと憂慮します。結論を出した以上、今後“行政と徳州会”“医師会と行政”“医師会と徳州会”、この三つを軸とする話し合い、榛南地区の医療を行う上で、そこでの交渉事が必要不可欠となります。繰り返しになりますが、行政(牧之原市・吉田町)に於いては、徳州会による公設民営化の締結までの交渉、ここで結論を出した以上、我々既存の榛原医師会 我々医師団とも向かい合って、気概と危機感を同時に持ち、行動していただきたい。

今後の我々医師団 医師会側としては“医師会と行政”の関係を“行政と徳州会”との関わりとも絡め、ここに焦点を絞った、我々医師団の姿勢・ビジョンを明確に示す、住民そして会員の為の、医師会の運営が必要となります。この意味で、今後の榛原医師会執行部の仕事は大変重たい。行政の資金力には限りがあるのと同様に、我々医師団の戦力にも限りがある。軸足を地域住民に向けた、地に足の付いた運営を切望します。

2010.3.15.

【詳細は 康寿診報 第 149 号 P2 平成 22 年 4 月発行参照】

上記提言は やはり、行政・榛原病院の現管理者 指定管理者 特定医療法人沖縄徳州会 そして我が榛原医師会に 必要不可欠な事でありませう。2010.7.28. 加藤内科医院 加藤寿夫

「指定管理者沖縄徳州会 榛原病院の在り方」は、榛南地区の医療問題だけでなく 牧之原市・吉田町の財政問題からも 大変大きな問題です。上記文面は 事の重大さを鑑みた上で「心のひろば」編集委員会の皆様への問い掛け[文面]の上、3 度目の投稿をした原稿です。今回は 文面による通達無く、「榛原医師会理事の“任を終えて” - その - 」「心のひろば」の存在意義を問うてみて - その 5 - 」「サッカーW杯 南アフリカ大会を堪能して - 日本編 - 」これら 3 つの投稿について、事務局による一方的“掲載不可”の口頭で報告のみの状況である“事”を申し伝えます。

《勉強会のご案内》

毎月通常の勉強会は原則第 3 土曜日 13:00 から開催です。
都合の付かない方には、ビデオ・DVD 学習をお勧めします。

8 月 21 日(土)	薬物療法について
9 月 11 日(土)	低血糖について
10 月 9 日(土)	第 81 回 睦会
11 月 13 日(土)	運動療法について
12 月 4 日(土)	インサリン療法について
1 月 15 日(土)	糖尿病とは

8/21 は、新薬についてもお話します。

《診療案内》

毎日朝 8:00 より 5 分間 阿波踊りの練習をしております。是非御一緒に！

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時～12 時						
15 時～18 時						

受付最終時間 厳守 とさせていただきます。

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:30 からです。
午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。
休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

ビデオ・DVD 学習は、個人の希望にも随時応じております。希望される方は、職員まで申し付け下さい。
今月「第 81 回睦会」は、「糖尿病治療の ABC を求めて」を 今後数年のメインテーマに、本院の糖尿病治療の実際 そして治療を良い状態で継続させる為には何が必要か、皆さんと共に考えてみたいと思います。
杉山晴子管理栄養士による「加藤さん家の食卓実習」調理実習を 8/21(土)・9/11(土) 9:30～12:00 実施します。食材費 500 円で プロのテクニックを自分の食卓へ応用して下さい。詳しくは栄養士杉山へ。

《各種ワクチン接種について 本院の考え方と実際》

本年度より、吉田町をはじめ榛原南地区では、小児のワクチン接種について、厚労省をはじめとする国の方針により “二種混合[麻疹・風疹(=MR)]ワクチン” “三種混合[ジフテリア・百日咳・破傷風(=DPT)]ワクチン” が、集団接種を取りやめ、個別での接種対象となりました。今後、更に個別の接種対象となるものが増えていくようです。来院にて(カルテのある方は電話予約でも可)予約の上、市町村からの書類を持って受診して下さい。本院では、可能な限りの利便性に配慮し、特別な理由が無い限り 診療時間内に個別に予約時間を決めさせていただき対応しております。

更に 本院では 小児に対しての “H i b [=インフルエンザ菌(=Haemophilus influenzae) b 型]ワクチン” “小児肺炎球菌ワクチン(プレベナー)” “子宮頸癌予防[=HPV(=ヒトパピローマ ウィルス)]ワクチン” の自費接種を すすめております。

《本院での自費接種可能なワクチンと価格》 下記は本院での接種費用で他院とは異なります。

肺炎球菌ワクチン・・・8,000 円	吉田町では 70 歳以上の方は個人負担無し(無料)
破傷風トキソイド・・・4,400 円	
日本脳炎(ジェービック V)・・・8,200 円	
A 型肝炎・・・6,000 円	B 型肝炎・・・7,200 円
H i b ワクチン・・・7,000 円	小児肺炎球菌ワクチン(プレベナー)・・・9,500 円
子宮頸癌予防[=HPV(=ヒトパピローマ ウィルス)]ワクチン・・・48,000 円(3 回接種の費用)	

は 4 週間あけて 2 回の接種が必要。
は 生後 2 カ月からの接種が推奨される。年齢により 1～4 回の接種が必要。
なお は 1 回接種の費用です

《“肺炎球菌ワクチン予防接種”のお知らせ》

吉田町では 70 歳以上の方に、接種代金 ¥8,282 の全額町の負担にて実施中です。

《“熱中症の予防”に心掛けて下さい》

暑気あたり・食欲低下に 清暑益気湯(TJ-136)・補中益気湯(TJ-41)をおすすめします。

《臨時休診のお知らせ》

9 月の臨時休診はありません。

お薬を切らさないように 気を付け下さい。

8/14(土)・27(金)・28(土) 10/15(金)・16(土)・18(月)・19(火)は 休診です。